

2022年7月1日

2021年度学校関係者評価報告書

2021年度学校関係者評価につきまして、以下の通り報告いたします。

1. 学校関係者評価委員会委員名簿（外部委員）

氏名	所属先
猪瀬 和志	株式会社猪瀬 常務取締役
手塚 彰一	栃木県立茂木高等学校 元校長
菊地 範昭	医療法人全人会 宇都宮中央病院
田中 優希	塩谷広域行政組合消防本部
半田 三男	社会福祉法人正恵会 特別養護老人ホーム ホームタウンほそや 施設長

2. 学校関係者評価委員会開催状況

新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、書面での意見聴取により実施。

3. 学校関係者評価委員会評価結果

別紙の通り。

2021年度学校関係者評価報告

(ア) 教育理念・目的・人材育成像

- ・学校の理念・目的・将来構想などの学校の教育方針が理解されてきていると思うが、SNSを活用し、さらに発信力を高めてほしいと思う。
- ・活発な学生の姿が多く見られ、スローガンの「人を助ける人になる」に相応しい人格の形成がなされていると思える。また、各業界へと就職していった卒業生たちの活躍もよく聞く。このまま人材の育成に努めてほしい。

(イ) 学校運営

- ・情報システム化はかなり進展してきていると思うが、(9)の個人情報の保護に対する評価が「2」となっているので、早急に対策を進める必要があると思う。
- ・「働き方改革」や「ワークライフバランス」にも関連する情報システム化を継続し進めていてもらいたい。

(ウ) 教育活動

- ・コロナの影響が強く、様々な制約の中での教育活動でご苦労も多かったはずだが、工夫を凝らしながら教育活動に取り組んできたことと思う。コロナの終息が見えない状況ではあるが、日進月歩の世界なので、先生方の研修の機会を増やし、最新の知識や技術を学生に還元してほしいと思う。
- ・各資格試験の合格率を踏まえ、現状問題はないと思われる。コロナウイルスの蔓延する現況下でも、オンラインによる教員の研修参加も引き続き継続してほしい。

(エ) 学修成果

- ・資格取得率を見ると先生方も学生もよく頑張っている。また、コロナの影響から経済的な理由で退学する学生が増えている中で、本学の退学率が減少していることは学校側の支援体制が整ってきていることだと思う。一方、国家試験に落ちた学生や、就職がうまくいかなかった学生をフォローし、支援対策を強化していく必要があると思う。
- ・合格率や就職率の向上、退学率の減少に引き続き努めてほしい。

(オ) 学生支援

- ・高校への出前講座等を積極的に行って、高校・専門学校との連携によるキャリア教育を充実させてほしいと思う。
- ・現状、特に問題ない。

(カ) 教育環境

- ・自主学習できる体制が整ってきた。引き続き環境整備を図り、高校生に魅力ある学校づくりを進めてほしい。
- ・校内でのネット環境が整備されたことにより、授業での学習の効率化や自学習への活用がしやすくなった。レポート等も電子化し、評価することで、紙資源の削減にもなり、「SDGs」にも一役買えている。

(キ) 学生の受入れ募集

- ・コロナの影響もあり、学生募集は困難なこともあると思うが工夫してほしい。学生による母校訪問なども少しは効果があるかもしれない。
- ・積極的な広報活動のおかげで、現状特に問題ないと思う。コロナウイルスの感染拡大の影響で、対外的な活動は難しいかと思われるが、継続してがんばってほしい。また、当校のホームページやSNSも継続して行ってほしい。

(ク) 財務

- ・現状、特に問題ないと思う。

(ケ) 法令等の遵守

- ・引き続き、法令等の順守に努めてほしい。

(コ) 社会貢献・地域貢献

- ・グラウンド整備が進み、地域住民に有効活用されてきている。また、学生も積極的に地域の行事に参加しているようなので、学校理解が一段と進む一助になっていると思う。
- ・コロナウイルスの影響もあり、現状厳しいと思うが、引き続き地域貢献・社会貢献に努めてほしい。

(サ) 国際交流

- ・以前に比べ、日本の文化・モラルに慣れてきているように見える。このまま継続してほしい。